

## 研究プロジェクト4 「立教中学校関係資料研究」

太田 久元

昨年度は、コロナウィルス蔓延の影響により、本研究プロジェクトの研究会の開催を休止したが、今年度はオンライン上で研究会を再開することとなった。また、田中智子研究員、市橋祐介研究員が退任し、市橋研究員に代わり原真也立教池袋中学校・高等学校教頭が研究員となった。

本年度は、計四回の研究会を開催し、戦時期の「立教中学校教務日誌」（以下、「教務日誌」）の検討を行った。研究会で行った事項は、『立教学院史研究』に連載中の戦時下における「教務日誌」の〈史料紹介〉に関する検討である。

二〇一九年度で検討された一九四四年度に続いて、『立教学院史研究』第一七号掲載）、本年度は一九四五年度分を同誌に掲載すべく、計四回（第四〇～四三回研究会）の検討会を開いた。

具体的には、解題で取り上げる事項の検討に加え、史料中、注釈が必要な用語・人名などを選定していった。

各研究員の素案をもとに議論し、四つのテーマに沿って解題を執筆するとともに、注釈も三つ入れることに確定した。執筆は研究員で分担し、全体の編集作業など付録の作成などは、事務局（筆者）が担当した。

原稿案は添付ファイルで送るとともに、グーグルドキュメント内で共有、回覧した上で、オンライン上で検討会を開き、修正を施して最終稿にまとめあげた。この間、原稿については立教池袋中高の原真也先生にもご確認いただいた。

以上の成果は、「戦時下の立教中学校『教務日誌』（四）——一九四五（昭和二〇）年度——」と題し、本号に掲載された。ぜひご覧いただきたい。

なお、本号で掲載された「戦時下の立教中学校『教務日誌』（四）——一九四五（昭和二〇）年度——」をもって、戦時下の「教務日誌」の〈史料紹介〉が終了するため、次年度の本研究プロジェクトに関しては、今までの研究会の報告・成果を整理した上で、次年度開催予定の第四四回研究会の前に各研究員に提示し、次年度以降の研究内容について決定する予定である。

本年度開催（次年度予定も含む）の研究会は、以下の通りである。

第四〇回（六月一日、オンライン開催）

第四一回（七月二八日、オンライン開催）

第四二回（一〇月七日、オンライン開催）

第四三回（十一月一八日、オンライン開催）

第四四回（二〇二二年度開催予定）

そのほか、立教池袋中学校・高等学校史料室所蔵の各種資料の再検討を継続的に進めている。具体的には、「教務日誌」一九五五年一月一日から一九五六年二月二十九日までを翻刻した。

次年度以降も、本プロジェクト研究を精力的に進めていくことができると考える。